

北大生物の会・東京

第47回談話会のご案内

下記の日程で「北大生物の会・東京」談話会を開催致します。
会員の皆様、会員以外のご参加いただけます。
皆様お誘い合わせの上、是非ご参加ください。

本会は、北大で生物学系の分野を学んだ卒業生たち（主として農学部、理学部、水産学部・卒）が、広範囲な分野のテーマについて、互いに啓蒙しつつ交友を深めるために、同士を募り、1995年に発起されました。毎年春と秋に談話会を開催しています。

今回は大森 信 先生をお招きしてお話を伺います。先生には『サンゴとさんご礁：修復と再生をめざして』というタイトルでお話を頂きます。先生は2014年まで阿嘉島臨海研究所所長を務められました。極めて貴重で興味深いお話が伺えるものと楽しみにしております。

| | |
|-------|---|
| 日時 | 2019年6月29日（土曜日）14時～18時30分 |
| 場所 | 北大東京同窓会 会議室（サピアタワー10階） 「3階の受付終了後、10階の会場にお越しください」 〒100-0005 東京都千代田区丸の内 1-7-12 Tel: 03-3211-9211 *地図は2ページをご覧ください |
| | 【アクセス】JR「東京駅」の八重洲北口改札から徒歩2分、新幹線日本橋口改札から徒歩1分、東京メトロ東西線「大手町駅」のB7出口から直結 |
| 談話会講師 | 大森 信 先生（東京海洋大学名誉教授、前・阿嘉島臨海研究所所長） |
| 演題 | 「サンゴとさんご礁：修復と再生をめざして」 *講演要旨および演者略歴は3ページ以降をご覧ください |
| 会費 | 無料 |
| ご連絡先 | 庶務幹事：祖父尼俊雄（院理・修（動物）S38 修了） E-mail: toshi_sofu@jcom.zaq.ne.jp |

*談話会講演の後に連絡・報告を兼ねた定期総会があり、17時より18時30分まで講師の先生と直接お話し出来る場として懇親会を行います（会費：5,000円、会場はサピアタワー3階にあるレストラン「PAPA MILANO」です）。懇親会への参加をご希望の方は、メールにて事前にご連絡くださいますようお願い致します。

ご不明な点がございましたらご連絡ください。皆様のご参加をお待ちしています。

<次ページにつづく>

これまで過去3年間（6回）の談話会では、下記のような内容で講演を頂いてきました。

- 第41回談話会 「視覚生理学の研究史と無脊椎動物の視覚」 講師：片桐 康雄 氏
(2016. 6. 25)
- 第42回談話会 「生き物と放射線」 講師：村松 晋 氏 (2016. 10. 24)
- 第43回談話会 「北大で学んだ浮遊生物学」 講師：福地 光男 氏 (2017. 7. 8)
- 第44回談話会 「新しい時代にマッチした「遺伝学用語集（日本遺伝学会・編）」の発行と遺
伝学用語の改定：「優性/劣性」はやめて「顕性/潜在」に、など」
講師；池内 達郎 氏 (2017. 10. 28)
- 第45回談話会 「生物学者昭和天皇と北大水産および生物の人たち」 講師：廣崎 芳次 氏
(2018. 6. 30)
- 第46回談話会 「人の多様性について考えていること」 講師：長谷川 知子 氏
(2018. 10. 27)

次回以降の談話会につきましても引き続き本欄にてご案内させていただきます。



サピアタワーの地図

<講演要旨および演者略歴は3ページ以降をご覧ください>

サンゴとさんご礁：修復と再生をめざして

大森 信（東京海洋大学名誉教授、前・阿嘉島臨海研究所所長）

「サンゴ」と「さんご礁」の違いをご存知だろうか。サンゴは生き物であり、さんご礁は地形のことである。刺胞動物門花虫綱に分類されるサンゴは、門レベルではクラゲやイソギンチャクやヒドロ虫と同じ仲間である。サンゴは炭酸カルシウムでできた骨格や骨片を作る。その形はその場の環境によって、大きく変化する。そして、それら石灰質の骨は、有孔虫など、同じく炭酸カルシウムの骨を作るほかの動物や石灰藻とともに積み重なって、さんご礁と呼ばれる壮大な地形を作り上げる。サンゴの中に熱帯や亜熱帯の、太陽光の届く暖かい浅海に棲み、体内に褐虫藻を取り込んで共生させている有藻性の種類がいる。有藻性と無藻性というサンゴの分け方は、サンゴの分類学や系統学とは直接リンクしていないが、サンゴの生態学的特徴をよく表している。有藻性サンゴは褐虫藻の光合成産物から主な栄養を得て盛んに成長してさんご礁の材料を生成し、やがてさんご礁を作るから造礁サンゴともよばれる。

さんご礁には多様な生物が棲んでいる。多くの生き物にとってサンゴ礁は産卵場や隠れ場であり、摂餌場所でもある。浸食によってさんご礁の形が変わると、そこを住处とする生物の種類も変わるから、さんご礁生態系は生物多様性の宝庫になる。さんご礁の面積は地球の海の 0.17% に過ぎないが、そこには海の全生物種の 30% にあたる 83,000 種が棲んでいる。さんご礁は自然の防波堤として機能して、沿岸を波浪や津波による浸食から護り、その周辺には一億人以上の人々が住んで、漁業や観光産業にたずさわっている。そこで生まれる経済的価値は年間 300 億ドルあるいは 1 ヘクタール当たり年間 35 万ドルといわれる。その貴重なサンゴ礁が、現在、沿岸開発や汚染などのさまざまな人為的かく乱を受けている。このままの経済活動が続けば、2010 年までに地球温暖化や海洋酸性化の影響もさらに顕著になって、世界のサンゴ礁の 95% 以上が失われると予想する研究者もいる。

生物多様性が著しく減少する中、サンゴの生物学や生態学研究者の知見をサンゴの保全とさんご礁生態系の修復再生に反映させることが、一層強く求められている。演者は基礎研究を進める余裕のない熱帯の国々に変わって、自国にさんご礁を持つ数少ない先進国のひとつとして日本の果たすべき役割はもっと大きい筈であるとの思いで、1988 年に沖縄慶良間諸島の阿嘉島に「阿嘉島臨海研究所」を立ち上げ、さんご礁を回復するための研究開発を進めてきた。世界をリードしているサンゴの有性生殖による増殖・移植技術の一端を紹介する。

【略歴】大森 信（おおもり まこと）

1937 年大阪府生まれ、1960 年北海道大学水産学部卒（北大山の会会員）、米国留学後、東京大学海洋研究所助手、カリフォルニア大学スクリップス海洋研究所客員準教授、ユネスコ自然科学局企画専門官、東京水産大学教授を経て、2002 年より 2014 年まで阿嘉島臨海研究所長。東京海洋大学名誉教授、水産学博士。